

令和6年度 在宅難病患者一時入院事業委託医療機関等連絡会議 ご報告

日時：令和6年9月30日（月） 13:30-15:30
開場：茨城県立中央病院 研修等B
方法：ハイブリッド（開場+オンラインWebex）

会議内容：

- 1.開会 司会 茨城県立中央病院 医療相談支援室 岡野朋子看護師長
- 2.挨拶 ・難病診療連携拠点病院 茨城県立中央病院 島居徹病院長
・茨城県保健医療部 疾病対策課 武村知巳課長
- 3.茨城県在宅難病患者一時入院（以下、レスパイト入院）事業、在宅レスパイト事業の概要と実績等について 茨城県保健医療部疾病対策課 技師 東野綺寧様
- 4.茨城県立中央病院実績について 茨城県立中央病院 難病相談連絡員 堤まゆみ
- 5.レスパイト入院事業の取り組みについて
・茨城県西部メディカルセンター 患者総合支援室長補佐 宮城裕美様
・茨城県西部メディカルセンター 病棟看護師 野口真希様
- 6.話題提供 第61回全国自治体病院学会 演題
「茨城県在宅難病患者レスパイト入院事業継続における調整の重要性」
茨城県立中央病院 堤まゆみ
- 7.意見交換
- 8.総評 茨城県立中央病院 難病医療対応WG医院長 甲斐平康透析センター長
- 9.閉会 茨城県立中央病院 医療相談支援室長 佐久間直美 副総看護師長

意見交換内容

1.入院中のリハビリについて

- レスパイト利用者アンケートで、リハビリへの要望が多いため、会議事前に医療機関へリハビリ対応が可能か否か調査した。
対応可能9機関、状況にもよる18機関、対応不可能2機関、無回答：1機関であった。
- 地域包括ケア病棟のあるH病院では、リハビリ介入している。急性期病院では厳しい状況。

レスパイト調整時に、その都度相談させていただきます。その際には、リハビリサマリーも手配します。

2.個室料金について

- 利用者より、病院によって個室料金に差があり、負担が大きいという意見があった。
- 入院1日につき環境整備費を含めて19,270円。（現状の事業費）
差額ベッドについては、国から事業費として明確に示されていない。
- 移送費・タクシー代は、医療費控除の該当になる場合がある。（税務署によって考え方が違うため、管轄税務署に確認を）

個室料金については、各病院のお考えもあるため、今回話題となったことを上層部の方々とも共有し、検討をお願いできると幸いです。

3.レスパイト事業対象以外の入院相談の対応について

- パーキンソン病など介護度が高いが、対象とならない場合、介護者は大変である。
- 病院によっては、かかりつけの患者だけ、医療レスパイト入院を受けているところもある。
- 積極的に受けているわけではないが、社会的入院になっている患者さんは沢山いるらしい。

在宅で看るためには、介護者が休養できる時間が必要。医療入院で受け入れてくれる場所があることに感謝ですね。

4.レスパイト入院診療情報提供書について

- 定期的に利用している場合、診療情報提供書の再利用は可能かと事前に質問があった。
（作成するかかりつけ医の負担も考慮し、訪問看護指示書に準じて6か月以内で変化がなければ、再利用した経緯もあったよう）

安全面から、最新の患者情報が必要。申請ごとにかかりつけ医より診療情報提供書を取り寄せてください。

5.レスパイト事業調整の現状について知ってほしい！

茨城県内の委託医療機関では小児受け入れできる病院が少ない！医療レスパイト入院においても少なく困っている！

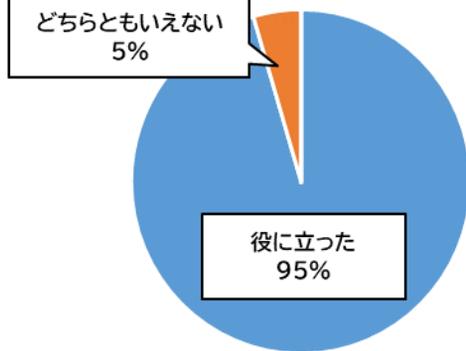
- 5年度より小児のレスパイト相談が増えてきている。
R5年度は、3名(2・4・10歳)
R6年度は、2名(5・6歳)
小児の受け入れ病院が委託医療機関の中では4機関だが厳しい状況。
レスパイト入院が利用できた患児は、1名のみ。



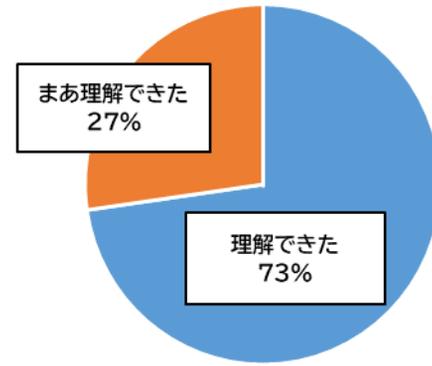
事後アンケート結果

1. 会議の内容について

1) 本事業の取り組みは役に立つ内容でしたか



2) 本事業を行う上で、保健所・委託医療機関・難病連絡相談員等の各役割は理解できましたか



3) 受入れる側の医療機関のMSWや病棟看護師の支援について、心に残ったことなどの意見

- 小児の受け入れ先がない現状の中で、受け入れ側の連携への取り組みについて感心させられた。
- 11歳の小児の受け入れについて、好きなものを聴取するなど工夫があり勉強になった。
- 母親からの意見を取り入れ、メッセージを活用して連携を取っている事などは必要であると感じた。
- レスパイト入院中の状況について家族が少しでも知ることができるように、メッセージカードを家族に渡したところが心に残った。
- 患者さんと家族が安心した環境を整える必要があると感じた。
- 家族が笑顔でまた利用します！と言ってくれたことが心に残った。
- 「家でやっている通りに」と沢山伝えられても難しいこともある。
- 入院前に、事前に対象の方と会っておくのは必要なことである。
- レスパイト中、家族が安心して過ごせるよう工夫しながらきめ細やかな配慮をしていることが勉強になった。
- メッセージカードで家族にも情報共有を忘れない。西部MDCでは当たり前のことかもしれないが、それがしっかりできるのは素晴らしいと感じた。自分の患者・家族と向き合う際に当たり前をしっかりやる！を徹底したいと思った。
- 小児レスパイトの現状を知ることができた。
- 医師やMSW・看護師が連携して小児のレスパイト入院に関わっていることが心に残った。
- 事例から薬の調整を母親がしていることが多いと知り、医療職からの情報だけでなく、病院と母親との細かい情報共有が、安心してレスパイトを受けるために必要だと感じた。
- 受入前の外来を含め、とても丁寧にかかわっている。なるべく受入れてくれる医療機関に在宅での様子が共有できるよう、また患者・家族・医療機関が安心して事業が利用できるよう調整していきたいと思う。
- 入院する患者・家族の不安に寄り添った対応がされていて、受け入れをお願いする保健所側からみてもとても心強いと思った。

2. 今後の連絡会議で取り入れてほしい内容

- レスパイト受け入れ状況を引き続き情報共有してもらえると、自施設にも取り入れられる。
- 現実的に大部屋での対応が難しい医療機関がほとんどではないかと思うので、今日課題になっている個室利用の際の考え方など、もう少し具体的な県の意見や方針があるとよいと思う。
- 今回と同様に実際の事業利用ケースを紹介してもらえると勉強になる。
- ほかの所の症例を知りたい。
- 会議の目的と異なるかもしれないが、本制度ではなく、医療レスパイトを受けている医療機関がある。病院側でどのようにすみわけしているのか？患者家族の希望でどうしているのか聞いてみたい。

3. 連絡会議全体についての意見・感想

- レスパイト事業に関係する医療機関・県・保健所等が現状や課題と共有でき参考になった。
- 各病院でのリハビリの対応や認識について勉強になった。
- 事前の情報収集の重要性や、よりよい環境で療養してもらうというMSWや病棟看護師の思いを感じた。
- 新規の受け入れについては、医師しだいの所もある。
- ハイブリッド形式は、会場とWebと両方とで直接参加できなくても有効だと思った。
- 集合での会議の開催が良い。
- レスパイト入院を調整する中で、医療機関がどのように調整しているのか、どのような情報が必要か知ることができて良かった。
- 他医療機関の取り組みや対応を学ぶことができる貴重な会議だと思う。
- 小児の方の対象があること、受け入れ病院が少ないことの現状を知れた。
- 個室代金については当院も個室ありとなっているが、今後の検討課題としていきたいと感じた。
- 個室代金・リハビリのことが大変勉強になった。子供の受け入れ先が県内もっと広がれば・・・と感じた。
- 貴重な経験と学びになった。小児受入病院が増えることを願っている。
- 小児の受け入れ医療機関が少なく困っている…現状を関係者に伝えてもらったのが良かった。疾病対策課（小児慢性特定疾病と難病担当）で対応を考えてほしい。
他県では、小慢の一時入院事業や在宅レスパイト事業を事業化している。医療的ケア児を含めて、県で対応を考えてほしい。



編集後記・・・ひとりごと

連絡会議開催にあたり、毎回どんな内容にしようかと悩む。
レスパイトを通じたつながり、感動したことを皆様にもお伝えしたくて・・・
次年度はどんな感動があるかな？

